

# 高温に伴う農作物管理対策について

気象災害対策 R 6 - 4  
令和 6 年 7 月 1 7 日  
農林総合研究センター

気象庁発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、最新の高温に関する早期天候情報では、7月19日頃からかなりの高温が見込まれています。

「夏季（6～8月）における農作物管理対策について（6月3日）」を発出しましたが、高温による気象災害の軽減を図るため、今回、更に留意すべき点を取りまとめましたので、指導の参考として下さい。

## (1) 水稲

- ・ 出穂後の養水分の確保の観点から、以下の点に留意し、対策を実施する。

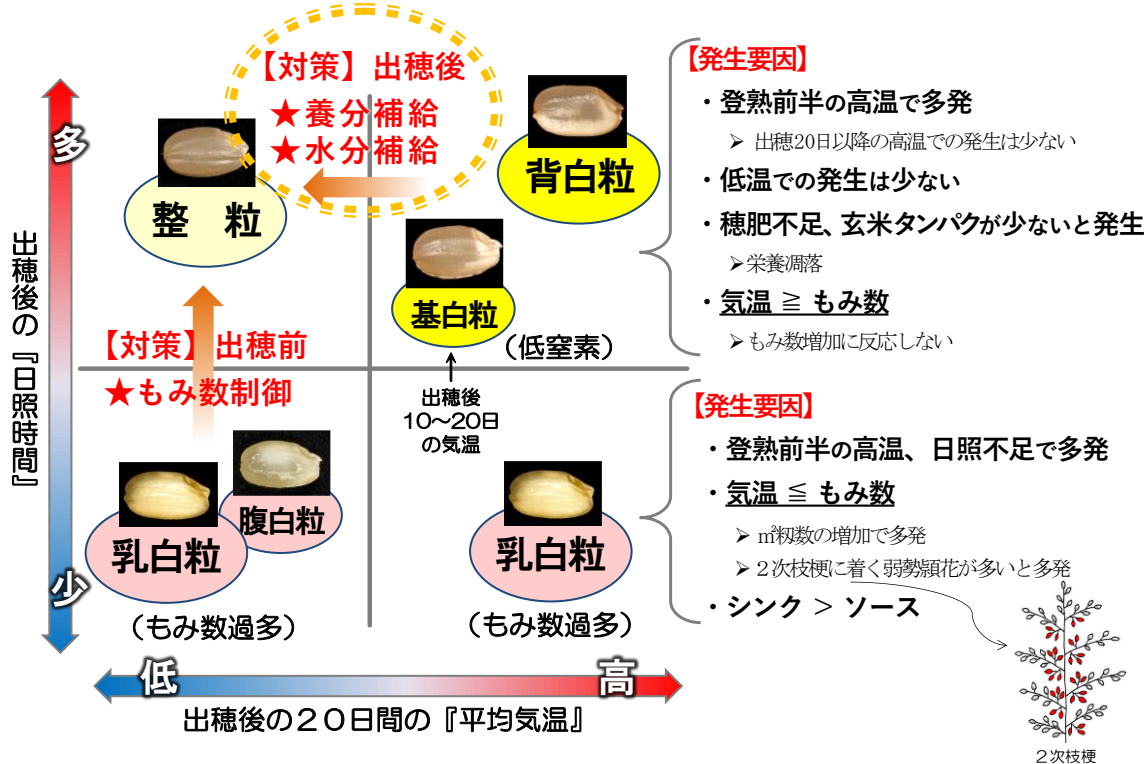


図 不完全米の発生と出穂後の環境の影響（鹿児島県農業開発総合センター2011を引用し一部改）



図 白未熟粒の形質とその発生を抑える対策

① 穂肥施用時期（7月）

ア 分施体系の穂肥

- ・穂肥の2回目は、高温登熟に対応するため、出穂7～10日前（葉耳間長0～2cm）に基準量を確実に施用する。

イ 基肥一発肥料体系への上乗せ追肥

○葉色による施用の判断

<出穂7～10日前に以下の葉色が維持出来ていないほ場>

- ゆめみづほ：葉色5未満
- コシヒカリ：葉色4未満
- ひゃくまん穀：葉色4未満

○施用量

- ・窒素成分1～2kg/10a
- ・葉色の濃淡やほ場地力、水田の乾湿等から総合的に判断し、施用量を加減
- ・ただし、高温登熟に対応した穂肥重点型一発肥料をこれまでの慣行と同量施用している場合は、原則、上乗せ追肥は不要。

② 出穂期（7月～8月）

- ・用水不足が心配される地域、特に用水をため池に依存している地域では、漏水がないか確認するとともに、集落や地域単位で計画的な水利用に努める。なお、関係機関との連携を密にし、ため池の状態を継続的に把握する。

(2) 大豆

- ・これから開花期を迎えることとなるが、今後の幼莢期にかけて、最も水を必要とする時期となる。この時期の水分不足は、落花、落莢を招き結莢数が著しく減少するので、開花期から子実肥大期（9月中旬）に3～4日以上晴天が続いた場合、うね間かん水を行なう。
- ・かん水は日中を避け、ほ場末端まで水が達したら直ちに落水する。ただし、水量が十分でなく、時間がかかる場合には、土を入れた肥料袋等で溝をせき止め、畝ごとに通水するなどして、水口周辺の長時間の湛水による湿害を防ぐ。

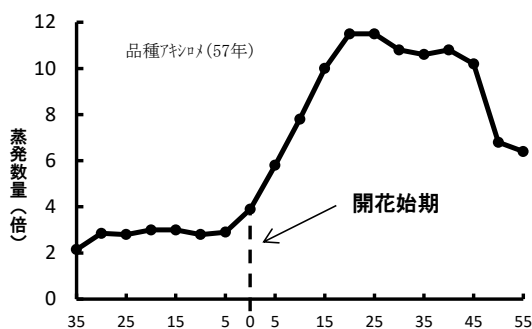


図 開花始期を0とした前後の日数 (S57四国農試)

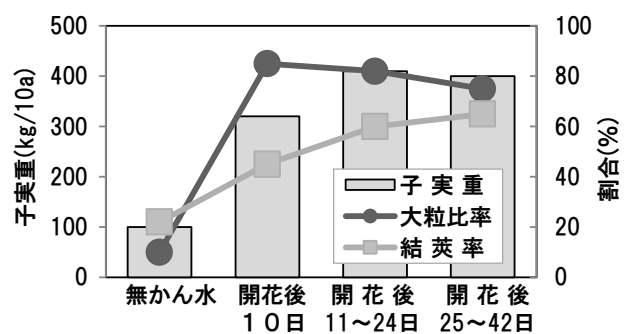


図 かん水時期と結莢率・大粒比率・子実重の関係 (H14富山農試)

### (3) 野菜・花き

- ・高温で生育が早まるため、遅れずに栽培管理を行う。特に果菜類では果実の成熟が早まるため、試し切りで熟度を確認し、適熟果を収穫する。
- ・日中高温時のかん水は根を痛めるため、地温の低い早朝または夕方に行う。
- ・土壌の乾燥により微量要素の吸収が悪くなるため、カルシウムやホウ素を含む微量要素入り液肥を散布する。
- ・極端な高温少雨の場合は、十分に散水してから耕起や畝立てを行う。
- ・施設栽培の遮光や遮熱対策は萎れる前に遅れずに実施する。
- ・高温乾燥時はハダニ、アザミウマ、うどんこ病が発生しやすいため、防除を行う。

### (4) 果樹

- ・高温によりハダニ類、カメムシ類、シンクイムシ類の発生が多くなるので、発生初期に散布むらがないよう丁寧な防除に努める。
- ・かん水できる園では積極的にかん水を行う。雑草の過繁茂は、水分競合を招くことから、草丈20cmを目安に除草し、刈草は樹冠下にマルチする。
- ・成熟期の高温は、果実の着色遅延と果肉軟化を助長するため、収穫適期を逃さないよう注意する。

### (5) 畜産・飼料作物

#### ① 畜舎及び家畜

- ・高温時は、熱中症などの家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システムなどの暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。

#### 高温に関する早期天候情報（北陸地方）

令和6年7月11日14時30分 新潟地方気象台 発表

北陸地方 7月19日頃から かなりの高温  
かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.4℃以上

北陸地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高い日が多く、19日頃からかなり高くなる可能性があります。

気温が急上昇して猛暑日となる所もあるため、熱中症の危険が特に高まります。体調に配慮しつつ、気温の上昇前に汗をかく機会を増やすなど暑さに慣れる取り組みを行って、事前の熱中症対策を進めるとともに、屋外活動での活動等では飲料水や日陰を確保するなど、健康管理に十分注意してください。

なお、1週間以内に高温が予想される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には、熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。